

着工セレモニーでスイッチを押す関係者。背後では、くい打ちの装置も稼働した  
酒田市・酒田港高砂ふ頭

# 酒田港 機能を拡充

## 岸壁延伸工事の着工式



本県唯一の重要港湾・酒田港（酒田市）の高砂ふ頭で29日、国際ターミナル岸壁の延伸工事着工式が行われた。急増するコンテナ貨物に対応できるよう、コンテナ船の2隻同時着岸を可能にする工事。現在280以上の岸壁を2019年度までに約150㍍延伸する。

着工式には国、県、庄内地域から関係者約70人が出席した。国土交通省の津田修一大臣官房技術参事官が「地域経済の発展に大きな役割を果たせる」とあいさつ。加藤鮎子衆院議員、大沼瑞穂参院議員らに続き、新田嘉一庄内開発協議会最高顧問が「みんなの熱意があったからこそリサイクルポートや重要港湾の指定、岸壁の延伸が実現できた」

と振り返った。

また、同省の上原修二酒田港湾事務所長は「公共投資による港湾機能強化が企業立地環境の向上につながり、新規立地や投資拡大を誘発する好循環が期待できる」と説明。セレモニーで代表者らがスイッチを押

し、着工を祝った。

酒田港のコンテナ貨物取扱量は、花王酒田工場の紙おむつの生産拡大などを背景に急増。2017年コンテナ換算（TEU）で16年は2万3658TEUとなり、3年連続で過去最多を更新した。将来も増加が見込まれており、岸壁延伸は国と県が役割分担し、進める。今年1月に着工した。

国の総事業費は16～19年度で約44億円。第1期として17年度中に約70㍍を延伸し、酒田港に多い千TEU級と700TEU級の同時着岸が先行して可能になる。第2期でさらに80㍍延伸し、千TEU級2隻が同時着岸できるようにする。県はふ頭用地の造成やクレインの更新・大型化などを担当し、17年度予算は9億5千万円。